

# 地域の福祉 新たに2拠点

## 道医療大生ら運営のNPOが開設へ 当別

【当別】当別町にある道医療大の学生たちが中心となって運営するNPO法人「当別町青少年活動センターゆうゆう24」が、厚生労働省の補助事業を活用して、当別町内に福祉の拠点施設二カ所を新たにオープンする。地域住民や学生が一体となって、障害者や高齢者、子どもたちを支える仕組みづくりを目指す。

(川村史子)

「ゆうゆう24」は北海道医療大学の学生ボランティア約五百人が主体になり、当別町や江別市で障害児者の介護事業を展開している。

同法人が新たに開設するのが、「共生型地域オープンサロン」と「共生型地域福祉ターミナル」。

「サロン」は、当別町弥生五二にある町商店街活性化センター「あえぐる」を改築して使う。カフェや地場野菜・駄菓子などの販売コーナーを設け、障害者や高齢者が働いたり、子どもたちの預かりや地域の人たちとの交流の場とする。開設は四月初旬を予定。

一方、「ターミナル」では、町内のさまざまなボランティア団体の活動拠点として子育て支援などを行う。施設は早くとも五月末に開設の予定で、新たに建てる場所の選定を急いでいる。

両施設には「ゆうゆう24」のスタッフが常駐し、活動の調整や管理をする。またボランティアと当別町の商店で利用できるポイントカードと連動させ、ボランティアの時間に応じてポイントに加算される仕組みもつく。

「ゆうゆう24」の大原祐介事務局長(三)は「障害者や高齢者、子ども、住民や

## 「支え合い」広げたい

学生のボランティアたちが支えたり、支えられたりしながら、「お互いさま」と

いう関係をまちに広げたい」と期待を込めている。今月末で閉館し、4月から地域福祉の拠点としてリアルオープンする「あえぐる」

